コロナ禍で胃腸にはこんな症状が増えています！

コロナ禍で急増する胃の病気「機能性ディスペプシア」

◆ 2021年6月8日、ニッポン放送「モーニングライフアップ 今日の早起きドクター」で、医師で医療ジャーナリストの森田豊氏が、コロナ禍で急増している胃の病気について解説されました。

（森田）ある会社の調査によりますと、「コロナ禍で胃の不調を訴える人が約４割いる」というデータがあります。胃もたれが約50%、胃の痛みが約32%、胸やけが約30%です。胃の不調から胃カメラで検査をして、胃炎、胃潰瘍、胃がんなどが見つかることがあるのですが、最近注目されているのが、胃の不調から胃カメラで検査をしても、何ら異常が認められないという状態です。これを「機能性ディスペプシア」と呼んでいて、コロナ禍で多くなったと考えられています。

「機能性ディスペプシア（functionaldyspepsia,FD）」とはどんな病気？

（森田）2013年に診断名として認められた新しい病気です。主にストレスが原因で胃の動きの異常や、胃粘膜などの知覚過敏が起こると考えられています。胃炎や胃潰瘍などの場合は、胃カメラの検査をすれば特徴的な所見が得られるのですが、機能性ディスペプシアの場合は、胃カメラで異常を認められないということなのです。

症状としては、すぐにお腹がいっぱいになる感覚や、みぞおちに焼けるような感覚が生じます。これらの症状が1週間に2回～3回以上起こって、1ヵ月以上このような症状が続いた場合、この病気を疑うということです。医療機関で胃の不調を訴えた人の半数がこの病気だったというデータもあります。

「機能性ディスペプシア」の原因は？

（森田）大きな原因はストレスにあると考えられています。胃はストレスの影響を受けやすい臓器ですので、ストレスがかかると交感神経が高ぶって胃酸が大量に出たり、胃の壁の血流が悪くなったりして、このような症状が出ます。

◆　「コロナ禍のストレス」について、「大草なっとく情報11月号」でご説明します。

このFAX通信は、研修用資料のため、店頭ではご利用になれません